

一日の水曜日(十六日)、私は都内のホテルで午前十時にある外国の知人と会う約束があった。早朝、家族が入院している病院に回らねばならなかったので、自分の車を運転して出かけたのだが、中山道はものすごい車のラッシュであった。

大いに地団駄を踏んだがいたしかたない。知人には事情を説明して詫びた次第だが、その地下鉄の駅の入口で「都民のみなさんへ」という東京都職員労働組合のビラを手渡されたこととあつて気が

プしたままなのだから、同情したい気持ちさえある。大阪などは、府が銀行から借金して国家公務員並みのボーナスを支払ったとも新聞が報じていただけに、いくら都の財政が悪くても二カ月分ほどのボーナスぐらい

このようなことだと、いくら都政については業人の私でも、革新都政はもう三期目であるのに、今日の財政危機を当事者の責任において問わずに、もっぱらお上のせいだけにしているのだからかたじけなく。これでは政府にたいし、もっともっと高度経済成長をつづけよ、というに等しくなりはしないか。

革新都政とスト



そこでやむなく、車を沿道の方ソリン・スタンド

なかじま みねお
中嶋 嶺雄

にあずけてオイル交換その他の手入れをもらうことにし、都営地下鉄に乗りかえようとしたのだが、なんと都営地下鉄はストで入口のシャッターが閉まったままである。知人はいわば外国要人で、忙しい日程なので

ついでに何げなくそのビラを讀んでみて驚いてしまった。もとより、私は、都の労働者がストをすることに反対ではない。ビラにもあるように、夏のボーナスも国家公務員より〇・三カ月低く、定期昇給もスト

なんかかならないものかとも思

だが、手渡されたビラを讀むと、このような財政危機とボーナス減額の原因はすべて政府にあるといった調子で、当日のストは政府に要求を実現させ、革

新都政を守るためのストだという。

このようなことだと、いくら都政については業人の私でも、革新都政はもう三期目であるのに、今日の財政危機を当事者の責任において問わずに、もっぱらお上のせいだけにしているのだからかたじけなく。これでは政府にたいし、もっともっと高度経済成長をつづけよ、というに等しくなりはしないか。

都職労が社共対立で一本化し得ない危機にあるとはいえ、右のビラは、あまりにも無茶苦茶な論理であつて、都民を納得させることはできない。ストは当然、美濃都政にたいしておこなわれるべきものではなかったのか。

(東京外大助教)